

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
H309	地域経済政策	3年	講義	2	森寛史
授業概要 地域経済政策の講義においては、グローバル化が進展する中で世界の地域主義の動きをまず検討して、次に日本の戦後の地域政策と地域構造の変化を歴史的に振り返っておきたいと考えている。 その際には、インフラを通じての経済振興を図ろうとした国土政策についても講義をして、更に地域版産業政策ともいえるクラスター計画の検討をする予定である。 全体を通じて、グローバル化が著しく進展する経済環境の中で地域経済がどのように変遷してきたのか、またそれにたいして地域政策はどう対応してきたのかを、大きな歴史的視野のもとに考察してみることにする。					
到達目標(学習の成果) 戦後の日本経済の大きな潮流の中でどのような経済政策、とりわけ地域政策がとられてきたのか、その政策策定過程とそうした政策の地域経済へ影響についての理解を深めることを目標とする。政策の含意については、経済学的手法を使い理解することも目標としたい。歴史的経緯の中で、どのようにして今日の地域政策の取組に至っているのかを理解する。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	地域経済と地域政策	地域経済とは、また地域経済の課題と政策を俯瞰する。			
2	現代日本の地域経済と地域問題、80年代以降の変化	特に1980年代以降、グローバル化が地域経済にもたらしたインパクトについて具体的に検討する。			
3	グローバル化と地域主義化、アジアを中心として	グローバル化の中で地域主義化の動きも進んでいる。特にアジアに焦点を当てて、現在の動向を考えてみたい。			
4	グローバル化と地域主義化、ヨーロッパを中心として	グローバル化の中で地域主義化の動きも進んでいる。特にヨーロッパに焦点を当てて、現在の動向を考えてみたい。			
5	グローバル化と地域主義化、北米を中心として	グローバル化の中で地域主義化の動きも進んでいる。特に北米に焦点を当てて、現在の動向を考えてみたい。			
6	現代日本の地域経済と地域問題、構造変化の視点から	特に1980年代以降、産業構造が大きく転換していく中で地域の経済構造がどのように変わってきたかを講義する。			
7	現代日本の地域経済と地域問題、大都市問題を中心に	東京一極集中、都市問題並びに過疎地域問題について、世界経済体制の変化などの視点から考察する。			
8	地域開発政策の検証、全総の政策経緯について	国土開発の基本法である国土総合開発法が、制定されるまでの経緯について講義する。			
9	地域開発政策の検証、一全総を中心に	1960年代半ばに全国総合開発計画がスタートすることになるが、そこに至る経緯と第一次の計画内容とその帰結について検討する。			
10	地域開発政策の検証、二全総を中心に	第二次の全国総合開発計画の政策策定過程の経緯とその内容と帰結について検討する。			
11	地域開発政策の検証、三、四全総を中心に	第三、四次の全国総合開発計画の政策策定過程の経緯とその内容と帰結について検討する。また、今世紀における国土開発の考え方について政府文書などにより考察する。			
12	産業クラスター計画と地域、その基本的考え方、その経済理論的背景	産業クラスター計画に至る経緯とその計画の概要について講義する。また、経済学の視点から見た産業クラスター計画の意義を考察する。			
13	産業クラスター計画と地域、TAMAの概要	TAMAの実例を中心に具体的にクラスター計画の内容を検討する。			
14	地域づくりをどう進めるか	地方自治の必要性が声高に叫ばれているのに、なかなか進まないのはどうしてなのか、主として現在の経済制度が抱える問題から検討し、望ましい地域づくりのあり方を考察する。			
15	若干のトピックスについて	これまでのまとめと触れられなかったトピックスを取り上げる。			

準備学修(授業外の自己学修)

日本経済の歴史について書かれている書物に目を通しておくこと。いくつかの参考文献等を指示するので読むようにすること。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末テスト80%、出席・授業態度20%

観点	S	A	B	C
今日の地域政策に至る戦後の変遷過程についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
地域経済の日本的特徴についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特に指定しない。

参考書等 神野 直彦『地域再生の経済学—豊かさを問い直す』中公新書
長谷川秀男『地域産業政策』日本経済評論社

履修上の注意・学修支援

経済学や経済政策を理解するためには、知識を基礎から少しずつ積み上げて行くことが肝要なので講義に出席をすることは当然として、予習・復習を欠かさずに行うよう心がけること。